

5	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16107006	人工環境の普及に伴う日本人の環境適応能の変化に関する研究	梶原 裕 (九州大学・大学院芸術工学研究院・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究課題は9名の研究者からなる組織で、増大する人工環境に対する日本人の環境適応能を多様な視点から解明するものである。現在までの進捗状況は概ね順調と判断され、優れた成果をあげている研究テーマ(分担課題)もみられる。一方、成果が遅れている研究テーマ(分担課題)もあるので今後重点的に研究を押し進めるとともに、個別の環境因子のみでなく複合環境因子による影響、さらには人工環境に対する総合的な適応能の解明にも十分取り組んでほしい。また、発表された研究論文数は多いが、評価の高い学術誌への論文掲載が相対的に少ないように思われる。これらの点に配慮しながら、今後さらなる成果が積み重ねられることを期待したい。</p>				
6	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16107007	生理人類学体系化の試みー実験生理人類学と理論生理人類学の視点からー	宮崎 良文 (森林総合研究所・樹木化学研究領域・生理活性チーム長)	B
<p>(意見等)</p> <p>本研究課題は2名の研究者によるもので、実験生理人類学と理論生理人類学の成果の融合をとおり、生理人類学の体系化というチャレンジングなテーマを目的としている。現在までの進捗状況は、個々の実験研究の成果はあがっているものの、両者の融合および体系化という最大の目的に関する具体的な成果が不十分と判断される。理論生理人類学の構築に関しては、国内外の研究者との交流に基づく研究の発展が「計画調書」で強調されているが、この点は「研究状況報告書」に具体的な記載がなく、公表された論文等の研究成果からも進行状況が見えにくい。本年度以降、これまでの成果を十分に活用しながら理論生理人類学の構築とともに、生理人類学の体系化の実現が強く求められる。</p>				